

OFSCの活動について

2005/4/15

事務局

株式会社フォアサイト

代表取締役 酒美 保夫

1

外食企業のITに対する経営者とシステム責任者の課題認識



経営者



投資対効果が低い

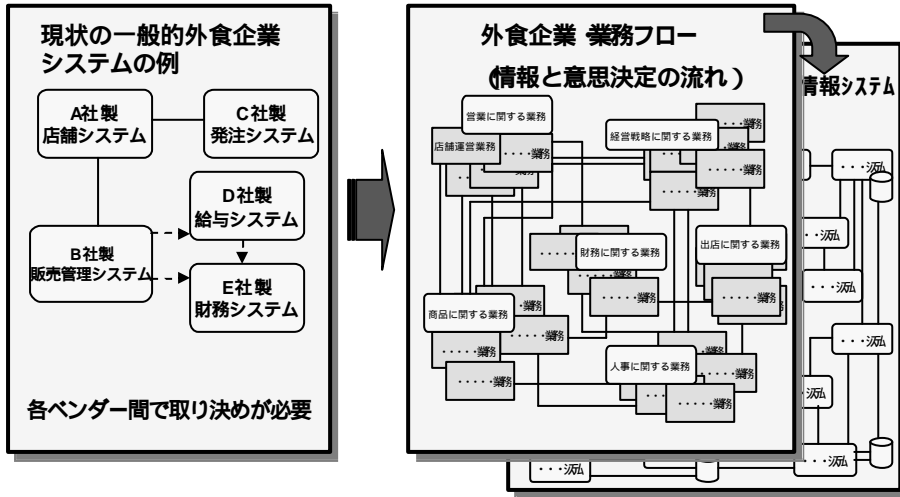


システム責任者



外食企業向けシステムがクローズドで柔軟性が低い

現状の外食企業システムとOFSCが目指す姿



将来像実現のための『Open化』

現状全体システムを全て提供できるベンダーはいない

オープン化の目的

- 全体システムをマルチベンダーで実現
- 参加各社のコラボレーション活性化
- 外食企業・ITベンダー双方の投資削減
 - ITベンダー各社がコラボレーションが容易となり投資削減可能
 - ユーザの投資に対する自由度が生まれる
- 『Open化』の効果
 - 各社機器・ソフトの選択肢の拡大
 - 専用機器と汎用機の適正な競合
 - ユーザの開発資産の継承
 - システムの部分的増設 変更に柔軟に対応可能
 - 新規ベンダーの参入促進
 - 新しいビジネスとの融合

『外食企業のITシステムの課題解決とOpen化』



経営者



投資対効果が低い



システム責任者



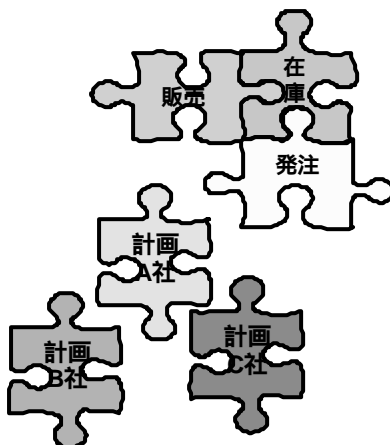
外食企業向けシステムがクローズドで柔軟性が低い



『Open化』が課題解決のキー

『将来像』の実現方法の検討

(『有機的な連携』のためのルール作り)



■ 目的

- 企業情報システム実現のため、各機器・サブシステムの『有機的な連携』

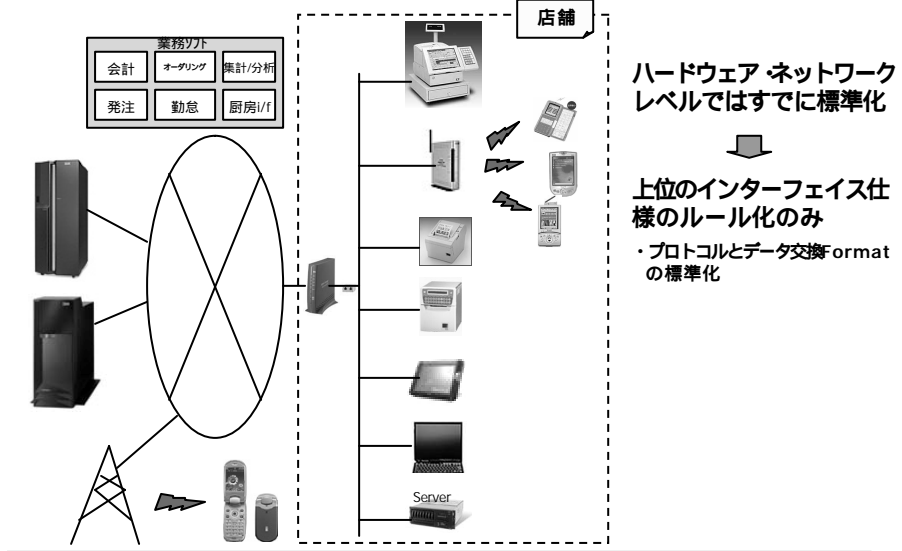


- インタフェース仕様が標準化されていること
- 標準に基づいた機器・サブシステムの登録

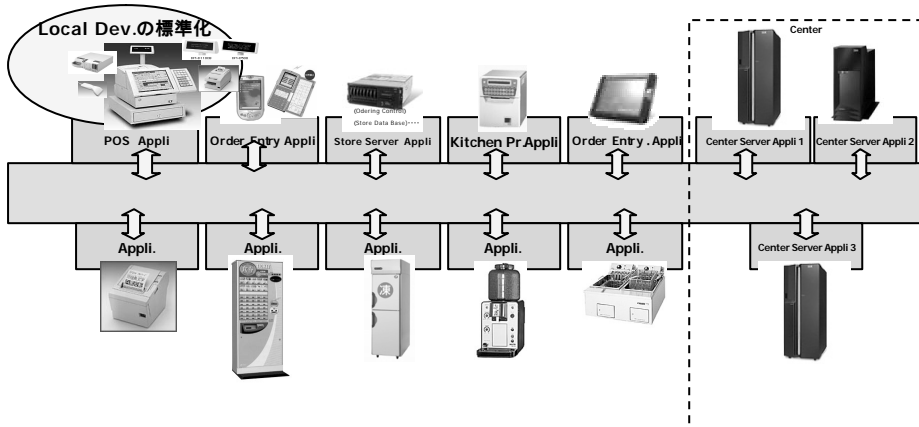
各機器・サブシステムのそのものは
各ベンダーの創意工夫

- IT業界全体の技術動向

連携のためのプラットフォーム

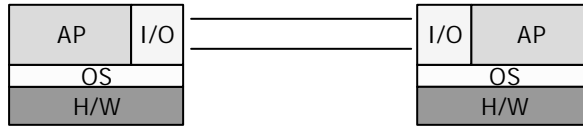


『有機的な連携』のイメージ



Open化のための標準化

標準化されたプロトコルとデータ交換Format



(例) 業界標準

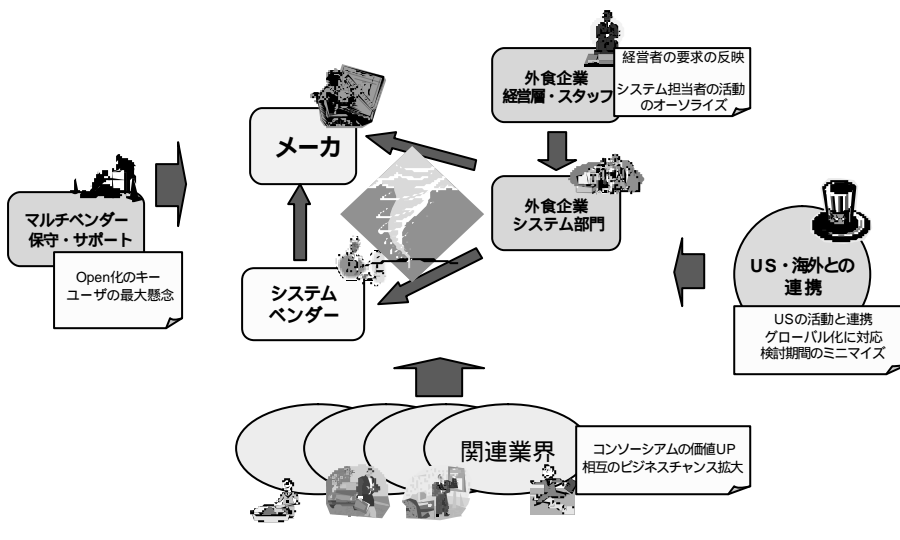
プロトコル SOAP (+TCP/IP)

データ交換Format :XML

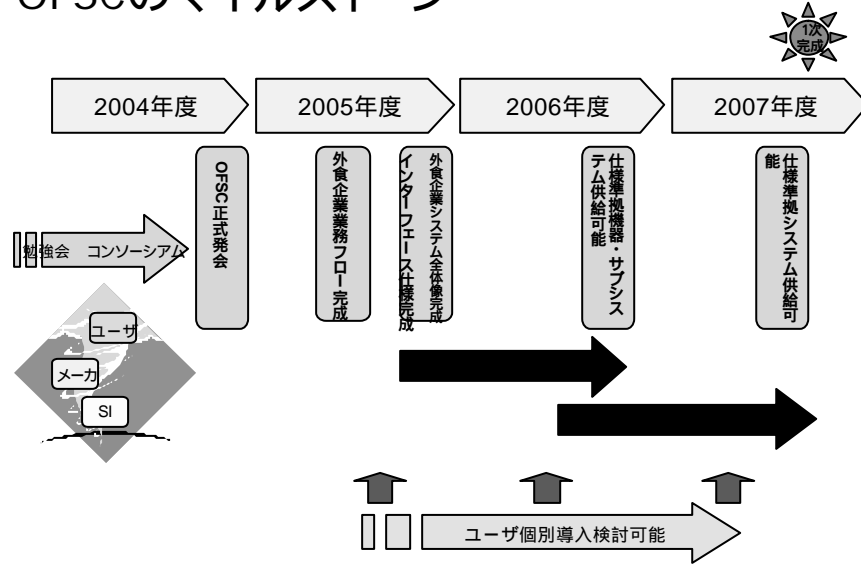


OFSCでやるべきこと：『タグ』の定義と普及

コンソーシアムをより有意義なものするために



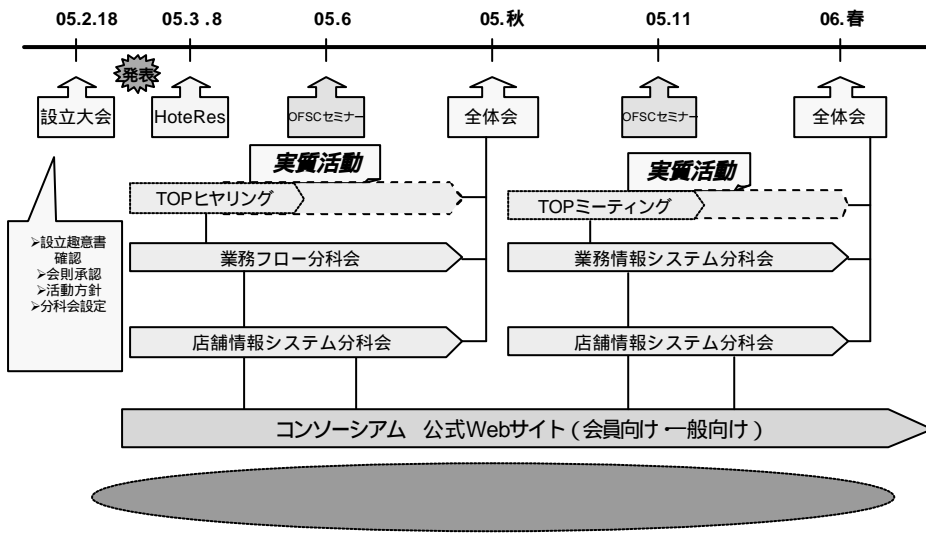
OFSCのマイルストーン



Copyright(C) 200 5 Foresight Corporation. All rights reserved.

11

2005年度活動計画



Copyright(C) 200 5 Foresight Corporation. All rights reserved.

12